MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL.106（年４回発行）

■発行日　令和５年１月１日
■発　行　三春まちづくり協会
■編　集　三春まちづくり協会広報部会
三春町大字貝山字泉沢100－1（旧若駒寮）
TEL／FAX(62)3988

新年のご挨拶

三春まちづくり協会長
相川　義則

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆様には、令和５年の新年を健やかにお迎えのこととと心からお慶び申し上げます。

また、昨年中は三春まちづくり協会にあたたかいご支援とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染拡大の中、大部分の行事等が延期や中止となり皆様には大変ご迷惑をおかけしましたが、感染防止対策を徹底し視察研修や三春秋まつりに参加出来たこと、会員皆様のご協力に感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、地域でのコミュニケーションが大変少なくなっています。

「人と人を繋ぐ」は対話から始まります。地域でのサロン活動など輪が広がっておりますが、「みんなが安心して楽しく暮らせる地域づくり」を更に発展するため、会員の皆様と地域の皆様とのコミュニケーションを密にし、少子高齢化の進む中、地域で支えあって推進していきましょう。

相手を思いやる優しい気持、歴史あるわが街を安全で安心して暮らせる街、町民が誇れるまちづくりを皆様と一緒に進めてまいりたいと思いますので、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、新年が皆様にとりまして明るく希望に満ちた素晴らしい年となりますようお祈り申し上げて新年のご挨拶といたします。

令和五年年頭の辞

三春町長
坂本　浩之

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆様におかれましては、令和５年の新春を晴れ晴れとした気持ちでお迎えのこととと心からお慶び申し上げます。

昨年中は、町政全般にわたり、あたたかいご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

三春まちづくり協会におかれましては、コロナ禍という中ではありますが、部会活動をはじめとした各種事業について創意工夫しながら取り組んでいただき、三春町の活性化のため日々ご尽力いただいていることに対して改めて御礼申し上げます。

また、サロン活動をはじめとした地域の支え合い活動にも地域住民の皆様が積極的な取り組みをしていただいており、重ねて御礼申し上げます。

今後も、町民、議会、町が一体となって、町づくりを進めて参りたいと思いますので、なお一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、新年が三春町と町民の皆様にとりまして希望に満ちた幸多い年となりますよう御祈念申し上げまして、年頭の挨拶といたします。

「ＳＤＧｓ」講演会
～生涯学習部会～

生涯学習部会長
平山　聰

令和４年８月２日㈫まほら学習室Ｃ・Ｄにおいて、「ＳＤＧｓに配慮した実施可能な地域づくりの進め方」を演題として、講演会を開催致しました。

ＳＤＧｓ、最近よく耳にする言葉ですが、実際どういうものなのか、どう取り組めば良いのか、よく分かっていないのが実情ではないでしょうか。そこで今回、事務局の協力を得て、講師として、国立環境研究所に勤務する福島県環境アドバイザーの五味（ごみ）馨（けい）先生にお願いして実施できました。

先ずＳＤＧｓとは、サステナブル・デベロップメント・ゴールズ、つまり、持続可能な開発目標であるとの説明からスタートし、プロジェクターを使用しながら、約１時間20分の講演でした。

２０１５年９月の国連で採択され、２０３０年を目標としており、目標達成までの時間が僅かであることが分かりました。

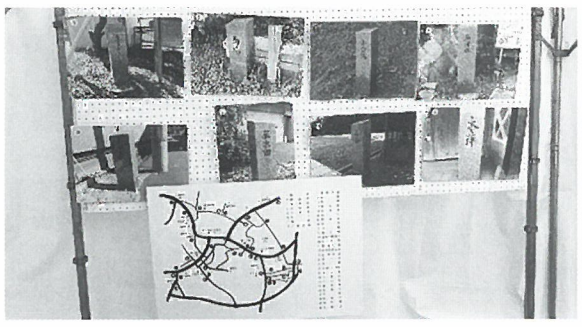
当初はＳＤＧであったが、17の目標（ゴール）があり、さらにそれぞれの目標を具体化したターゲットが１６９個あるとのことから、ＳＤＧｓとされたとのことでした。

ＳＤＧｓとは普段の生活の中で、いくつもの目標と関わることが分かり、地域にとって住民がより良い地域であることが大切であることが分かりました。

お話をお聞きして感じた事は、数が多いうえに奥が深く、どこから手を付けて良いのか分りませんが、子や孫が安心して住めるような環境を残してあげるために、私達が出来ることから、また、小さいことから努力して行こうと思いました。

第17回三春秋まつり

11月５日・６日、三春交流館まほらにおいて開催された三春秋まつりに当協会もブースを出し、石柱に関する展示や拓本ラリーを実施しました。今回も盛況でした。



「追遠」

地域部会　圓谷　彰孝

『論語』に、「追遠」という言葉がある。追は、あとを追う、遠は、遠い昔という意味だ。いにしえ人の息吹を感じつつ、彼らの歩みに学ぶ姿勢を示唆しているのだ。幾多の変遷を見守ってきた歴史道は、人生の日々が、かけがえのないものであることを語りかけている。

◇

周辺の山野が色づき始めた、晩秋の一日、「東舘・二の丸散策路」を歩いた。田村大元神社から二の丸方向に歩を進める。樹齢を誇る大木が根を張る上り坂を進み、二の丸跡に達した。正面に、安達太良山を中心とした山並みが展開し、参加者の心を和ませる。

「季節のよい時には、お弁当を持って来るんですよ。見晴らしが素敵で、さわやかな気持ちになります」

郷土史家でもある、ガイドの深谷陽子さんは、城下町である三春藩歴代の歩みを紙芝居に託し、地元ファンに喜ばれている。

「生きた証を印す歴史は、さまざまな情報をもたらします。それらを教訓として生かすのが、わたしたちの役割と感じています。こうしている、いまも、歴史は動いています」と語る。

◇

「しんみんさん
何一つ読まなくてもいいんだ
じっと坐って
風の音をきいているのも
一つの歴史だよ

しんみんさん
何一つしなくてもいいんだ
じっと坐って
天地と呼吸を合わせているのも
一つの歴史だよ」

（坂村真民「一つの歴史」）

◇

「ライスレイクの家」では、深谷さんが、製作中の「紙芝居」の脚本を朗読。田村氏、秋田氏だけではなく、その礎を築いた松下氏が、三春に存在したことを紹介した。

「二十年に満たない藩政でしたが、忘れてはならない人物です」

参加者の一人は、「ふだんの生活では気づかない歴史の重みを、散策路を体験してみて、ずしりと感じました。先人の功績があって、今日があるんですね。家族にも伝えたいです」と感想を述べた。参加、十二人。

田村大元神社への石橋。ガイドの深谷陽子さんから、由緒を聞く

歴史道に足を踏み入れると、いにしえびとの息吹が伝わってくる。二の丸散策路に向かった

三春藩の歴史に耳を傾ける。深谷さんが、紙芝居の脚本を朗読した

「公園を支える若い力」
―田村高校の生徒が植樹作業―

地域部会　圓谷　彰孝

秋晴れの一日、田村高校の生徒が、「三春花の丘公園」で、気持ちのよい汗を流した。アジサイの植樹である。授業の一環として行われたもので、テーマは、「環境」。三年生、四十五人が参加した。

スコップの扱いにてこずっていた、安瀬愛里さんは、「株が大きくて、土を掘るのが大変ですが、ものを育てる苦労の一端を体験した思いです。開花の時期が楽しみ」と語り、両腕に、一層、力をこめた。

田村高校の三年生が、「花の丘公園」に集合。樹々の葉が色づき始めた園内で、アジサイの株植えを行った

「身の周りの状態がどうなっているのか。それを知ることは、大切な学習だと思います。この公園で見聞きしたことを後輩に伝えたい」と語る、大内慶次郎さん。同期生の掛け声を背に、作業に打ち込んでいた。

着工から、三年の歳月をかけ、園内を整備した、「花の丘公園」。新一年生と保護者による、ハナモモの植樹をはじめ、これまで、サクラ、レンギョウ、ヤマザクラ、ハルカザクラなどを園内に配置してきた。

急斜面を上り、植栽場へ。指導員のアドバイスに、はきはきと応えていた

昨年は、田村高校の協力を得て、ドウダンツツジを、入り口の一つ、王子神社参道に手配し、入場者に喜ばれている。

今回は、公園中腹と、入り口である、北野神社の参道付近に、アジサイを植えようと、五十七株を用意した。

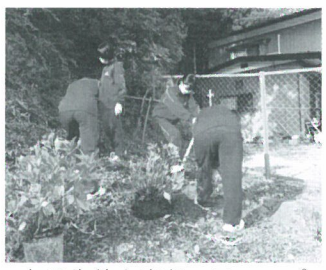
引率した同校の、小針建朗教諭は、「自分を離れて、周囲（環境）に関心を払うことは、若い彼らにとって大事です。作業をとおして、自分だけではなく、周りの人のことも考えられる習慣を、身につけてほしい」と語った。

ひたむきな生徒の姿を見守っていた、同校ＰＴＡ副会長の、安齋徹さんは、「一人の力は限られても、大勢が一つになれば、思いもしない効果があらわれることを、彼らは教えてくれました」と述べた。

赤いジャージを着た田村高校の生徒たち。公園の中腹から一望できる街並みを前に、若い力を存分に発揮した。

アジサイの植樹を企画した、ＮＰＯ法人「三春楽しい地域づくりの会」理事長の内藤忠さんは、「皆さん素直で、株植えの方法を教えると、そのとおりに実行します。のみ込みも早く、力も強い。その魅力は、若者の特権といえます。彼らの可能性を伸ばす、きっかけづくりをしたい」と語った。

十一月には、同校の二年生が園内の作業に参加。ヤマザクラ、ユキヤナギなどを植樹する予定だ。


女子生徒も奮起。スコップを扱う手に一段と力が入る

初心に聴く

■環境部会　加藤　明義

この度、三春まちづくり協会環境部会の委員となりして活動することになりました。私は平成２年子供が生まれたときに妻の実家である三春町に移り住んできました。すでに30年以上生活をしておりますが町の行政に関わるようなことはなかったので、まちづくり協会といわれてもよくわからないのが現状です。部会の事業報告に目を通し活動内容を確認しているところです。

環境部会の目的としては『誰もが暮らしやすいまちづくり活動』となっており、環境についての勉強会・研修参加、通学路放射線量のハザードマップをどうするか等ありますが、まずは私の第一歩としてどの様に係わっていけるかを模索、活動していきたいと思っております。時折、愛犬を連れて街中を歩いておりますが、気が付かなかったことが多々あり、それと同時に三春町の美しさを感じることがあります。この三春町で生まれ、育ち住んでいる方、また、他の地域から移り住む方など様々でありますが、どんな人にも『暮らしやすい三春町』だと思っていただけるようなまちづくりを目指し活動していきたいので宜しくお願いします。

「三春わが街」デジタル版はこちらから！
三春町のホームページの中の地区まちづくり協会のページにつながるＱＲコードです。

コミュニティだより
「三春わが街」第一〇六号
発行日　令和五年一月一日
発　行　三春まちづくり協会
編　集　三春まちづくり協会
広　報　部　会
三春町大字貝山字泉一〇〇一
（六二一）三九八八